第四講　論理構造分析②「条件法」「連言」

「条件法」のフレームワーク

① A　ならば　B（AはBである。）→（命題）
② A　の条件（前提、本質、基本）は　B　である。
③ A　は常に（必ず、絶対）B
④ すべての　A　は　B　である。（全称文）
⑤ A　のためには　B　でなければならない。（AのためにはBである必要がある。）
⑥ B　でないならば　A　でない。
⑦ B　以外には　A　はない。
⑧ B　のときのみ（だけ、に限り）A
⑨ B　は　A　でありうる。（BにはAの可能性がある。）
⑩ B　してはじめて（してこそ）A

※　A　は　十分条件、B　は　必要条件

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「連言」のフレームワーク

① A かつ B
② A さらに、しかも、そのうえ、加えて、B さえも
③ A しかし、だが、けれど、B
④ A だけでなく、のみならず B も
⑤ A と（や）B
⑥ A つつ、ながら、同時に、ともに、B
⑦ A である B が存在する。（存在文）
⑧ 一方 A 、他方 B 。

Ⅰ、「かつ入れ」＝ 本文「A」、「B」→ 解答「AかつB」は正解

Ⅱ、「かつ取り」＝ 本文「AかつB」→ 解答「A」は正解
＝ 本文「AかつB」→ 解答「B」は正解

※「AかつB」が「C」の必要十分条件のとき、Cの説明の解答としては「Aのみ」、「Bのみ」は間違いとなる

Ⅲ、「かつひっかけ」＝ 本文「A」→ 解答「AかつB」は間違い

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「条件法」と「連言」を攻略せよ！

第四講　論理構造分析②　1995年第一問

（本問は、設問を一部省略して掲載しています）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

物との結びつきを根本的に変質させ、社会との結びつきを根底的に変化させつつある私たちにとって、そこでの出来事の生成と着床のあり方は、経験におけるそれとは正反対である。正反対であるような変質であり、変化なのである。その「結びつき」が含んでいた物事のあらゆる局面は、時間とともに結晶するのではなく、反対に一つ一つその輪郭と形状と特性とを曖昧にし消失していく。それはくっきりと刻まれ印づけられるということがない。この限りで現代の私たちを貫く「自然過程」は、見かけのどのような装いにもかかわらず、衰弱であり減退である。私たちが何を失くし何を忘れ去ったのかさえ判然としない「忘却の忘却」は、ア<u>その端的な現れにほかならない</u>。

ささやかでも全力を振りしぼってこの時代的傾性に抵抗しようとするなら、少なくとも私たちには、喪失したものに対する鎮魂と消滅しつつあるものに対する敬意とを含むような認識が欠かせないだろう。失われて過去

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

に深く埋もれたままの物事に、それが待ちうけているであろう新たな眼差（まなざ）しを注ぎ、現に消滅しつつある物事には、それが充分にかけがえのない「働き」をなしとげたのかを見届けねばならない。事物一つ一つの身の上に投じられる<u>イ鎮魂的認識と物質的想像力</u>とが、私たちには肝要なのである。そうして事物の伝記を形づくる、その物事の来し方と行く末とを貫く運動に対して注意深くなければならない。

かつてホッブスは、その感覚の解剖学において、物事の中断された運動や消失ないし除去された対象が、そのあとに残す感覚的映像のせめぎあいについて考え、それを「衰えゆく感覚」(decaying sense)として把（とら）えた。人間が目にした事物の印象や耳にした物音の行方に注意を向けて、それが消滅したり遠ざけられたあとに、衰退しながら「なおも残る」感覚的な経験を力学的な運動として捉えようとしたのである。それを借りて言えば、私たちの経験世界は、激烈な「衰えゆく感覚」運動のなかにあるのではないか。いわば感覚は定着すべき基礎をもたず、ただちに映像化の過程に移行してしまうのではないか。感覚の対象との結びつきが弱ければ弱いほど、その衰退の過程は加速され、交替のサイクルは短縮されるだろう。物事との交渉が稀薄であれば、ホッブスが言うように、私たちの感覚映像は「日中の騒音における人の声」程度にしか刻印されないからである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission 「条件法」と「連言」を攻略せよ！

「衰えゆく感覚」の与件そのものがすさまじいことは言うまでもないだろう。たとえば「人間について大地は万巻の書より多くを教える。大地が人間に抵抗するがゆえに。」（サン＝テグジュペリ）という生の基盤としての大地自体がいまや決定的な変貌をとげつつある。地表を隈なく覆おうとする開発の全精力は、「抵抗」すなわち自然が帯びる「不快さ」の除去に集中しているようにみえる。削られ均（な）らされ整えられた土地という名の物件は、種々様々の抵抗を孕（はら）んだ大地の形姿そのものを「衰えゆく」ものとするだろう。曲がりくねり凹凸があり障害物を含むからこそ大地なのだとすれば、その映像を後退させ衰弱させて、直線や平面という幾何学的図形の印象が取って代わるのである。こうして私たちの「内面」は幾何学化されていくのだ。しかも、万巻の書にまさるという「抵抗」を排除する一方で、ますます学習と教育に熱をあげている。どこで何を学ぼうというのだろうか。

　そうであるなら、私たちは、消滅して「もはやない」ものと生成の「まだない」ものとの関連について語るよりも、いや語るまえに、むしろ「もはやない」と「まだなお」とのそれに注目すべきではないか。私たちにとって「もはやない」は、「まだない」を対項として予想することができるのだろうか。あるいは不可欠の契機としてそれと切り結ぶことがないのでは

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ないか。つまり、「もはやない」はそれとして成立しえず、したがって「まだない」を着床させることができずに、いわば繰りかえし流産してしまうのではないか。そうであるとすれば、むしろ「もはやない」を成り立たしめ、忘却の忘却からそれを救い出すためにも、ゥ私たちは「まだなお」に対してこそ注意深くなければならないだろう。ここで「まだなお」とは、ホッブスの「なおも残る」映像すなわち残像である。少なくとも「もはやない」ものの危機的事態からすれば、それは残像であるほかないだろう。私たちが身を置いているのは、そのような「残像」文化なのではないか。

（市村弘正「小さなものの諸形態」）

〔注〕　○ホッブス――Thomas Hobbes（一五八八～一六七九）。イギリスの哲学者。

○サン＝テグジュペリ――Antoine de Saint-Exupéry（一九〇〇～一九四四）。フランスの小説家。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「その端的な現れ」（傍線部ア）とはどのようなことか、「その」の内容を明らかにしつつ説明せよ。

㈡「鎮魂的認識と物質的想像力」（傍線部イ）とはそれぞれどのようなことか、わかりやすく説明せよ。

㈢「私たちは「まだなお」に対してこそ注意深くなければならない」（傍線部ウ）のはなぜか、その理由を「まだなお」の内容を明らかにしつつ説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講

論理構造分析②　講義のまとめ

「条件法」のフレームワーク　①

「連言」のフレームワーク　②

に注意して、読み、書く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　論理構造分析②「条件法」「連言」

1995年　第一問　市村弘正「小さなものの諸形態」

要旨

現代人は物事との結びつきが希薄になり、出来事を経験とせずに忘却してしまう傾向がある。その傾向に抵抗するためには、過去に対して畏敬の念を持ち、現在の視点から再考察することが必要になる。

なぜ現代人は出来事を忘却してしまうのか。不快な抵抗が存在することで、人間は多くを学ぶ。ところが、現代人は不快な抵抗を排除してしまう。よって、現代人は物事を忘れやすくなるのである。

したがって、現代人は過去から未来を考えるより前に、現在から過去を考えるべきである。

解答

㈠
過去の出来事を経験とせずに忘却していく現代的傾性の典型例。

解答ポイント

① 過去の出来事を経験とせずに忘却していく現代的傾性
② 典型例

㈡
過去の物事に対して畏敬の念を持ち、その可能性を再認識すること。

解答ポイント

① 過去の物事に対して
② 畏敬の念を持ち
③ その可能性を再認識する

㈢
現代人は過去を忘却し、未来も推測できないので、過去の影響を残す現在の感覚的経験を考察することで、過去を再認識するしかないから。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答ポイント

① 現代人は過去を忘却し
② 未来も推測できない
③ 過去の影響を残す現在の感覚的経験を考察することで、
　過去を再認識するしかない

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その」という指示語、「端的な現れ」という筆者特有の用語がポイントであることがわかる。よって、以上のポイントを説明する根拠を本文中に求める。

まず「その」という指示語であるが、第一段落五文目の「現代の私たちを貫く『自然過程』は、見かけのどのような装いにもかかわらず、衰弱であり減退である」の「自然過程」を指している。ただし、「自然過程」だけではまだわかりにくいので、さらに説明を求める。すると同段落一文目「そこでの出来事の生成と着床のあり方は、経験におけるそれとは正反対である」や三文目「時間とともに結晶するのではなく、反対に一つ一つその輪郭と形状と特性とを曖昧にし消失していく」とあるように、①「出来事を経験とするのではなく、忘却していく」のが現代の「自然過程」であるとわかる。

次に「端的な現れ」であるが、傍線部を含む一文の主語は「私たちが何を失くし何を忘れ去ったのかさえ判然としない『忘却の忘却』」であり、それは「現代の私たちを貫く『自然過程』」の一部分であるから、「端的な現れ」とは②「典型例」だと考える。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「鎮魂的認識」と「物質的想像力」という筆者特有の用語がポイントであるとわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「鎮魂的認識」であるが、第二段落一文目に①②「喪失したものに対する鎮魂と消滅しつつあるものに対する敬意とを含むような認識」とある。

次に「物質的想像力」であるが、第二段落二文目に①③「失われて過去に深く埋もれたままの物事に、それが待ちうけて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

いるであろう新たな眼差しを注ぎ、現に消滅しつつある物事には、それが充分にかけがえのない『働き』をなしとげたのかを見届け」ることである。

　以上のポイントをコンパクトな言葉でまとめて、解答を構成するとよい。

(三)　傍線部理由説明問題

　傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「『もはやない』を成り立たしめ、忘却の忘却からそれを救い出すためにも」という部分と、「私たちは『まだなお』に対してこそ注意深くなければならない」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

「『もはやない』を成り立たしめ、忘却の忘却からそれを救い出すためにも」の説明であるが、(一)で①「現代は過去の出来事を忘却する傾向がある」ということを捉えている。また、「そうであるとすれば」という条件も踏まえる。「そう」の指示内容は、直前の「つまり、『もはやない』はそれとして成立しえず、したがって『まだない』を着床させることができずに、いわば繰りかえし流産してしまうのではないか」という一文である。②「未来」から「過去」を推測することができるかというと、そもそも「未来」は「過去」から推測するものであるから、それは不可能である。であれば、第五段落六文目にある「ホッブスの『なおも残る』映像すなわち残像」から、過去を捉えるしかない。そして「ホッブスの『なおも残る』映像すなわち残像」とは「その忘却した後に『なおも残る』感覚的な経験」である。③「その忘却した後に『なおも残る』感覚的な経験」しか、「過去の出来事」を捉える手がかりはないので、「私たちは『まだなお』に対してこそ注意深くなければならない」のである。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。